

理念・ビジョン

経営理念

お客様を大切に、地球を友に、
個性を尊重し、総合力を発揮して
世界の人々に信頼され、社会とともに発展する
開かれた、なくてはならない会社でありたい。
そして社員が自信を持ち、
常に創造し挑戦していることを誇りとしたい。

EXCEED YOUR VISION

私たちエプソン社員は、
常に自らの常識やビジョンを超えて挑戦し、
お客様に驚きや感動をもたらす
成果を生み出します。

私たちのパーパス

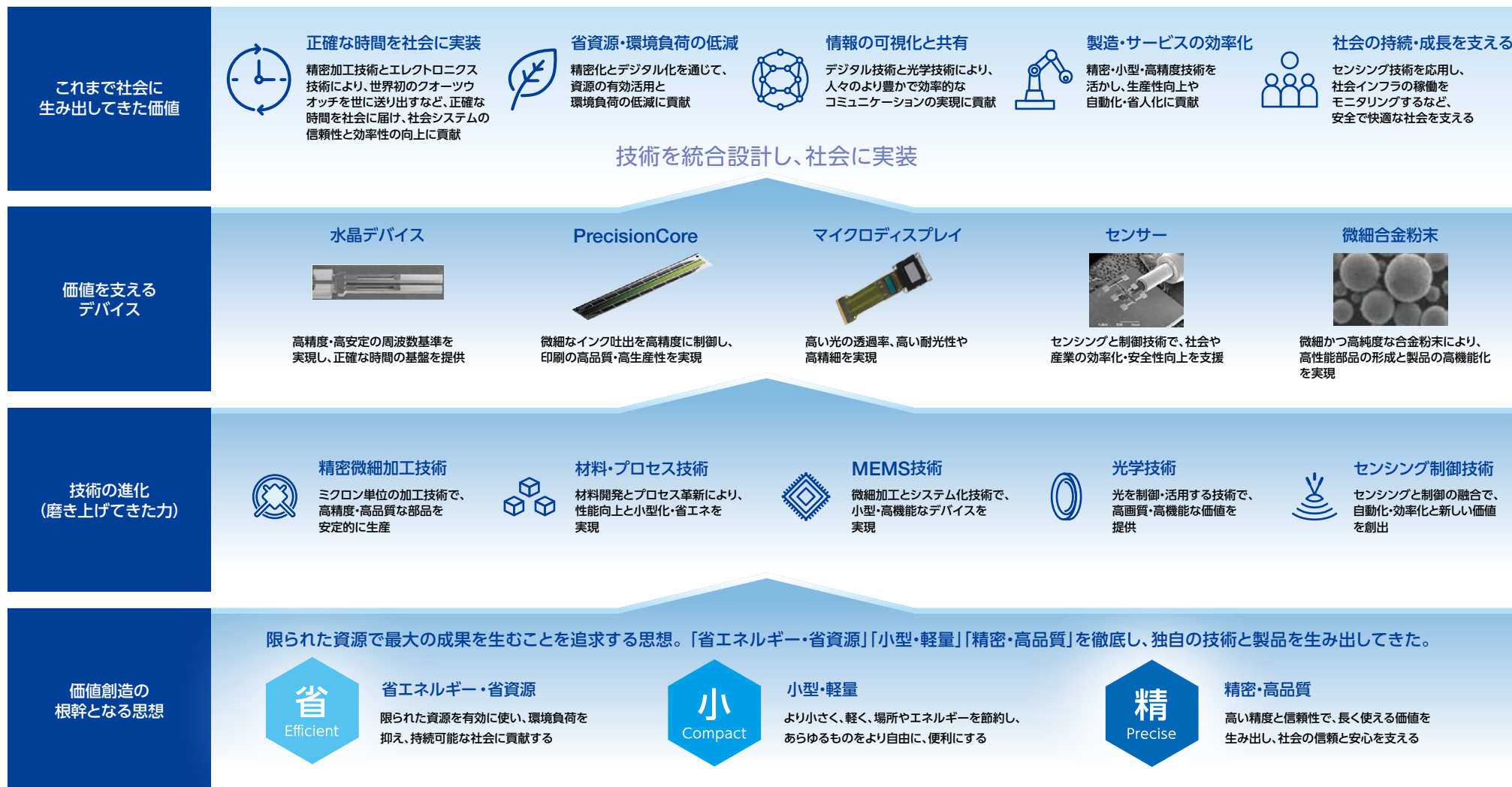
**Our philosophy of efficient, compact and precise innovation
enriches lives and helps create a better world.**

「省・小・精」から生み出す価値で、人と地球を豊かに彩る

エプソンは、豊かな自然や文化に恵まれた信州で誕生しました。
そんな私たちが抱き続けてきたもの、それは「省・小・精」の技術で、人々の暮らしを豊かにしたいという想い、
そして、自然の豊かさを守り、未来へつないでいきたいという強い想いです。
これまで世界に先駆けてフロンを撤廃するなど、つねに社会課題に目を向け、誠実に取り組んできました。
そのなかで追求してきたエプソン独自の「省・小・精」。
大きいこと、量が多いことだけが豊かさではない。省くこと、小さくすること、精緻さを突き詰めること、
これこそが、自然環境にやさしく、人々のこころを豊かにできるものだと思っています。
「省・小・精」から生み出す、より大きな価値で、人と地球を豊かに彩っていきたい。
私たちは、そんな想いを実現していきます。

価値創造の源泉

1942年の創業以来、社会課題の解決を起点に、独創の技術を価値へと転換し、産業や暮らしの発展に貢献してきました。
イノベーションの信念と思想を進化させて、今日の精密微細加工、MEMS、材料・プロセス、光学、センシング制御技術、そしてこれらの技術を統合設計し、社会実装する力をつけてきました。
その基盤は、エプソンの成長の源泉です。



誠実・努力

創造と挑戦

企業価値向上に向けた変革の歩み

エプソンは、社会や市場環境の変化を捉えながら、中期経営計画ごとに経営課題と向き合い、事業構造や経営基盤の変革を進めてきました。

これまでのエプソンは、紙への印刷需要に応えるプリンティングを中心とした事業が売り上げの約7割を占めていました。

今後は、「ENGINEERED FUTURE 2035」で掲げる「Technology Innovation × Engineering」に基づき、産業領域で成長するエプソンへの転換を進めます。

Epson 25 Renewed 2021年度～2025年度

高収益体質への転換

課題

- 供給優先によるオペレーション効率の低下
- 物価上昇等を背景としたコスト上昇圧力の継続
- 成長領域へのリソース再配分不足
- 事業ポートフォリオ変革の加速必要

方針

- 資本効率経営への転換
- ROICを軸とした資本最適配分で、成長と資本効率改善を実現
- 成長領域への資源集中と収益基盤改革を推進

取り組み

- 産業領域への集中投資（技術進化×エンジニアリング、インオーガニック施策）
- グローバルオペレーション改革による固定費圧縮
- 地域戦略・収益モデルの変革（新興市場での販売強化、バーチャル戦略）

ENGINEERED FUTURE 2035

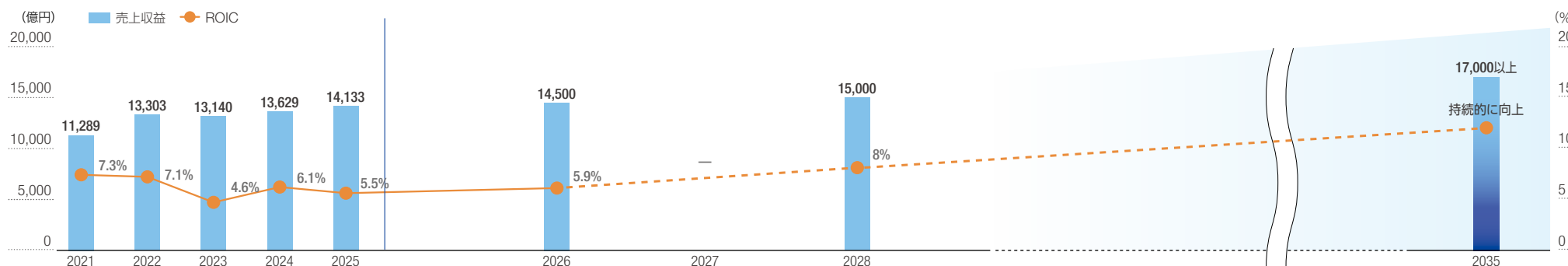
～2035年度

Technology Innovation × Engineering による価値創造

ENGINEERED FUTURE 2035 プリンターのエプソンから Technology Innovation × Engineering のエプソンへさらに進化

2035年に向けた私たちの役割

社会や産業の変革を支えるために
「省・小・精」の技術・思想を基盤として価値を創出し、実装していく



売上収益・事業利益比率

(外側:売上収益構成／内側:事業利益構成
／USD150、EUR170同一為替前提)



2025年度

*1 産業領域

- ・インクジェットソリューションズ
- ・マイクロデバイス
- ・エプソンアトミックス
- ・ロボティクス
- ・商業・産業プリンティング

*2 現在(2026年3月13日の長期ビジョン発表時点)から、2035年に目指す比率。



2035年度

産業領域*1

CAGR 7%

売上収益比率

33%→50%*2

事業利益比率

45%→70%*2

長期ビジョン「ENGINEERED FUTURE 2035」 価値提供領域

エプソンが考える4つの価値提供領域と、現在我々が持つ技術を適用したイメージが以下の図です。これら4つの領域に関連したサービスや製品の市場は急速に成長しており、私たちにとっての大きな事業機会になります。技術を個別に点で活かすのではなく、立体的に展開して総合的に社会実装し、技術×エンジニアリング×現場の力で、価値創出していきます。



特集

社員と共に形作った長期ビジョン「ENGINEERED FUTURE 2035」



長期ビジョン「ENGINEERED FUTURE 2035」は、経営チームと社員の代表者から構成された検討チームが一緒になり、エプソンの目指すべき方向性について議論を重ね、長期ビジョンを形作りました。本特集では、長期ビジョンに込めた思いや、検討プロセスについて紹介します。



現場と向き合い、未来を構想する

「ENGINEERED FUTURE 2035」の検討では、「これまでの延長線上で将来を描かない」ことを重視しました。経営チームと各事業部・本部から集まった検討チームは、社内議論だけでなく、国内外の

現場を訪問し、お客さまやパートナー、従業員との対話を重ねながら、エプソンの将来像を多角的に検討しました。現場では、社会課題や産業構造の変化、技術進化のスピードなど、事業環境の大きな変

化を改めて実感しました。その上で、「エプソンは何を強みに社会へ価値を提供していくのか」を繰り返し議論しました。こうしたプロセスを通じて、「プリンターの会社」という枠を越え、“技術”と“エンジニアリング”を核とする企業への進化を目指す「ENGINEERED FUTURE 2035」が形作られていきました。

検討プロセスでは、事業や世代を越えた多様な視点が交わり、経営チームと検討チームによるフラットな対話が繰り返されました。各自が自部門の視点だけでなく、会社全体、さらには社会全体を俯瞰しながら議論したことで、エプソンの強みや課題を改めて客観視することができました。また、参加メンバーにとっては、将来の成長を担う人材として、より高い視座で経営や事業を考える経験にもなりました。多様な知見や現場の実感を融合しながら未来像を描いたこと自体が、エプソンの変革姿勢を象徴しています。「ENGINEERED FUTURE 2035」には、社員と経営陣が共に未来を構想したプロセスそのものが反映されています。

